

九州本土を対象としたミカンコミバエ種群の改良型飛来解析システムの開発に関する研究

ポイント！

- かんきつ類等の大害虫であるミカンコミバエ種群は、毎年、海外の発生地域から風に乗って日本に飛来してくるから、侵入警戒調査による**早期発見・早期防除**に努めている。
- ミカンコミバエ種群が発見された場合は、沖縄県、鹿児島県向けの飛来解析システムに基づき、侵入原因を調査。
- 近年の飛来状況の変化に対応するため、**九州本土までを対象とする飛来解析システムを開発する必要**がある。



ミカンコミバエ種群

現状・課題

- ・かんきつ類等の大害虫であるミカンコミバエ種群は、毎年、海外の発生地域から風に乗って沖縄県や鹿児島県の南西諸島に飛来。
- ・ミカンコミバエ種群が発見された場合は、沖縄県、鹿児島県向けに開発された飛来解析システムに基づき、発生地域（台湾、フィリピン）からの風や飛来地点に吹き込む風を解析し、侵入原因を調査。
- ・令和2年度以降、九州本土の広範囲（熊本県、長崎県、鹿児島県等）においても、多数の飛来が確認されるなど飛来状況が変化。
- ・このような状況を踏まえ、近年の本虫の飛来傾向に対応するため、沖縄県から九州本土までを対象とする飛来解析システム、及び、飛来リスクを事前に把握できる飛来予測システムの開発が求められている。

必要な研究

1. 九州本土を対象としたミカンコミバエ種群の改良型飛来解析システムの開発

飛翔特性等の飛来解析に必要な調査研究を行うとともに、近年の飛来傾向を踏まえた、沖縄県から九州本土の広範囲を対象とする改良型飛来解析システムを開発。

2. 飛来要因の解明とミカンコミバエ種群の飛来予測システムの開発

ミカンコミバエ種群発生地域における気温、風向き等の飛び立ちの条件、国内における降雨、地形等の着地の条件など飛来要因を明らかにして、飛来リスクを把握するための飛来予測システムを開発。

研究成果の活用

開発した改良型飛来解析システム及び飛来予測システムを用いて飛来の範囲を分析し、侵入調査の調査地点の見直し等に反映させることにより、**ミカンコミバエ種群の早期発見を実現**。